

2020年度事業 進捗報告書（資金分配団体）

- 提出日：2022年 11月7日
- 事業名：沖縄シングルマザーの活躍推進基盤構築事業
- 資金分配団体：公益財団法人オリオンビール奨学財団

① 実績値

【資金支援】

アウトプット	指標	目標値	達成時期	現在の指標の達成状況	進捗状況 *
シングルマザー支援のための事業費	適切な事業資金計画	適切な事業資金計画ができている	2024年 3月	概ね各実行団体は事業見合った資金計画書ができている。一方で事業運営の人員体制に伴う資金計画の見直しを要する実行団体もあったが、自己資金の確保が円滑に進んでいたため対応できた。	2

<p>実行団体伴走支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資金分配団体が実行団体の進捗状況（活動回数、参加人数、支援人数）を確認 	<p>実行団体の進捗状況を確認</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・活動回数⇒月1回以上 	<p>2024年 3月</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月1回実行団体と個別面談を開催している。 ・実行団体合同の研修会を2回実施 	<p>1</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・実行団体の現場視察 	<p>訪問回数</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・各実行団体1回以上 	<p>2024年 3月</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・公益社団法人沖縄県母子寡婦福祉連合会3回 ・株式会社レキサス2回 ・特定非営利活動法人リトルワローズは県外のため来沖時に面談3回 ・株式会社アソシアは若年妊産婦が対象なのでコロナ禍の影響でまだ訪問できていない。今後状況をみながら訪問予定 	<p>2</p>

【非資金的支援】

アウトプット	指標	目標値	達成時期	現在の指標の達成状況	進捗状況 *
有識者会議開催	有識者会議 ・開催回数 ・有識者人数	・開催回数 全体で4回 ・有識者人数 7名	2024年2月	・第1回有識者会議開催(2022年8月17日) ・識者7名 ・オブザーバー3名	2
シングルマザーの実態についての調査 ・基礎調査 ・本調調査	シングルマザーの実態把握調査回数	・基礎調査1回 ・本調査1回(必要があれば2回)	2023年2月	・基礎調査2022年7月に完了 (おきぎん経済研究所に依頼) ・本調査は2022年11月から着手予定(おきぎん経済研究所に依頼)	2
広報支援 ・実行団体活動パンフレット作製	・製作部数 ・配布部数	・製作部数 ・配布部数	2024年3月	未実施	4
・年次報告会	・実施回数 ・参加人数	・年に1回開催	2024年3月	未実施	4
資金分配団体の持続可能な体制の構築	・人数	・4名	2024年3月	JANPIA 事業終了後までに確保予定	3

・人員体制の構築					
・出口戦略の構築	・会議回数	・会議回数⇒4回 (数字の根拠 出口戦略を有識者 会議で扱うので)	2024年3 月	JANPIA 事業終了まで に構築するかを検討	4
・企業の賛同を募る	・コンタクトをとった 企業数			未実施	4

*進捗状況：1 計画より進んでいる、2 計画どおり進んでいる、3 計画より遅れている、4 その他

② 事業進捗に関する報告

1.事業計画に掲げた短期アウトカムの達成の見込み
2.概ね達成の見込み
2.アウトカムの状況
A：変更項目 <input type="checkbox"/> 変更なし <input checked="" type="checkbox"/> 短期アウトカムの内容 <input checked="" type="checkbox"/> 短期アウトカムの表現 <input checked="" type="checkbox"/> 短期アウトカムの指標 <input checked="" type="checkbox"/> アウトカムの目標値
5.新型コロナウイルス感染拡大に対して、事業活動を行う際に工夫した点
・在宅できる環境を整えた（PC、ポケット Wi-Fi の貸与） ・研修時に研修会場のコロナ対応ガイドラインに沿って対応（消毒用アルコールの設置、検温、換気）
6. 実行団体の進捗に関する報告
・各実行団体とも概ね計画通りに進んでいる。 ・アソシアのシェルター事業は内部、外部の連帯が丁寧に構築されており、シェルターの職員にコロナが発生した際も、他の支援施設に協力を促すことができた。 ・公益財団法人沖縄県母子寡婦福祉連合会とレキサスは、クール（期）を重ねるごとにカリキュラムの改善に取り組み、より良い講座運営

につとめている。

- ・特定非営利活動法人リトルワイズは、連携企業も増え、就労支援も着実に進めている。また公益社団法人沖縄県母子寡婦福祉連合会と就労支援や他の支援についても情報交換を行っている。

③ 広報（※任意）

1.メディア掲載（TV・ラジオ・新聞・雑誌・WEB等）

2.広報制作物等

- ・沖縄シングルマザーの活躍推進基盤構築事業シンボルマークの作成（別添資料①）

3.報告書等

- ・基礎調査（別添資料②）
- ・第1回有識者会議資料（別添資料③）
- ・第1回有識者会議実施報告書（別添資料④）
- ・ロジックモデル（別添資料⑤）

2020 年度事業 中間評価報告書（資金分配団体）

評価実施体制

内部／ 外部	評価担当分野	氏名	団体・役職
内部		名嘉山 妙子	公益財団法人 オリオンビール奨学財団
内部		具志堅 千波	公益財団法人 オリオンビール奨学財団
外部	評価アドバイザー	幸地（落合） 千華	一般社団法人 CoAr 代表理事

A) 事業のアウトカムの進捗状況の評価

① 短期アウトカムの進捗状況

【資金支援】

アウトカムで捉える 変化の主体	指標	目標値	達成時期	これまでの活動をとおして把握している変化・改善状況
安心・安全な場につながる。(セミナーに参加)(シェルターの利用)	①セミナー参加人数 ②セミナー継続数 ③シェルター入居者数	①セミナー定員数の8割が応募 ②セミナー参加者8割継続 ③シェルター入居者数13名(事業期間累計)	2024年3月	<ul style="list-style-type: none"> ・公益社団法人沖縄県母子寡婦福祉連合会 1期生 7名継続/10名定員数 2期生 10名継続/10名定員数 ・株式会社レキサス 1期生 5名継続/5名定員数 2期生 6名継続/6名定員数 ・2実行団体ともに継続者数は安定している ・公益社団法人沖縄県母子寡婦福祉連合会は補講、自宅学

				<p>習ができるようにしている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・株式会社レキサスは受講者に対して個別のスキル達成状況シートを作成し、達成レベルを可視化できるようにした。 ・実行団体はスキル支援だけでなく、メンタルサポートやイベントを実施し、受講者同士のコミュニケーションを図ることにつとめている。 <p>・株式会社アソシア シェルター受入数 7名（2022年8月時点）</p>
シングルマザーがスキルアップの選択肢が増える。	<p>職種・業種の合計 ①（職種・業種の数）</p>	<p>・実行団体全体でスキルアップの支援が2種以上ある</p>	2024年3月	<ul style="list-style-type: none"> ・3種類 公益社団法人沖縄県母子寡婦福祉連合会 （データアナリスト、動画クリエイター） レキサス （Webデザイナー）
実行団体が（事業終了後も事業の継続を決めている。	<p>継続して事業を行う 実行団体数</p>	<p>・2団体以上</p>	2024年3月	<ul style="list-style-type: none"> ・事後評価の段階で各実行団体に確認
シングルマザーの仕事の選択肢が増える。	<p>職業・職種の数</p>	<p>・実行団体全体で就業先が行政等で既存支援していない</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・公益社団法人沖縄県母子寡婦福祉連合会のデータアナリスト、株式会社レキサスのWebデザイナー、特定非営利活動法人リトルワンズの連携企業を合わせて、7社が就業先

		ところで7社以上ある		として選択ができる
シングルマザーが就労できている。	就労人数の合計	本事業を通して60人以上が就業できている	2024年3月	<ul style="list-style-type: none"> ・公益社団法人沖縄県母子寡婦福祉連合会 3名 ・株式会社レキサス 11名 ・特定非営利活動法人リトルワンズ 2名 合計16名(2022年9月時点)
シングルマザーの収入があがる	転職前より収入があがった状態	シングルマザーの収入があがった	2024年3月	<ul style="list-style-type: none"> ・今後実行団体からヒアリング又は受益者からアンケートを実施予定 ・公益社団法人沖縄県母子寡婦福祉連合会は正社員として3名採用された(転職前より待遇が向上した) ・株式会社レキサスはフルタイム勤務した場合に年収200万円以上となる時給になっている。
県内企業がシングルマザーの雇用を増やす	連帯企業の雇用の雇用人数の増加の合計	県内企業のシングルマザーの雇用が増えた		今後実行団体の連帯企業の雇用状況を集計予定 また、資金分配団体として今後広報活動をする中でつながる企業にシングルマザー就労への意識づけにつなげていきたい。

【非資金的支援】

指標	目標状態	達成時期	これまでの活動をとおして把握している変化・改善状況
実行団体同士の連携が生まれる	実行団体同士の連携が一つでも生まれた	2024 年 3月	<ul style="list-style-type: none"> ・2021 年度は各実行団体の個別面談とは別に、全体ミーティングということで月1回実行団体4 団体を集めてオンラインで各団体の報告会を行い、交流のきっかけが生まれた。 ・公益社団法人沖縄県母子寡婦福祉連合会と特定非営利活動法人リトルワnzは2022 年度に入り連携が活発になり、就業に関する情報交換や、特定非営利活動法人リトルワnzが公益社団法人沖縄県母子寡婦福祉連合会や関係団体に対し講座を行った。 ・評価合（2022 年6月21 日開催）では、実行団体同士で情報交換をする場面があった。
各実行団体のロジックモデルを有している。	各実行団体がロジックモデルを有した	2024 年 3月	<ul style="list-style-type: none"> ・評価コーディネーターを中心に実行団体にむけた評価研修及びロジックモデルの作成を2回実施（2021 年4月14 日、2022 年6月21 日）し、各実行団体がロジックモデルを保有した。 ・初年度はアウトプットとアウトカムの区別に苦戦している団体もあったが、評価アドバイザーがアドバイスすることによって、アウトプットとアウトカムのつながりが見えやすいロジックモデルが作成できるようになった
県内企業がシングルマザーの雇用に対する理解度が高まる。	県内企業がシングルマザーの雇用に対する理解度が高まった	2024 年 3月	<ul style="list-style-type: none"> ・リトルワnzは連携企業目標5 社だったが12 社になった。 ・リトルワnzから、連携企業の1つは母子家庭の採用や女性の就労環境の整備は大事なことと分かっているが、費用や人材が不足していることから「見て見ぬふり」をしてきた。定期的にリトルワnzと顔を合わせることで、女性の就労環境整備に取り組むことを思い出し、社内の環境も変わってきた。と報告があった。

資金分配団体が専門家の助言を得ることで、事業に対する専門性を高める	事業に対する専門性が高まった（所属先等）	2024年 3月	<ul style="list-style-type: none"> ・大学教授、シングルマザー支援団体、マスコミと多様なメンバーで構成できた。 ・7名の内2名が県外 ・識者の知見やシングルマザー支援に対する考えを共有することができた（別添資料③・④）
資金分団体が調査結果を共有し、事業に活用する。	<ul style="list-style-type: none"> ・調査結果を理解した 調査結果を事業に活用した 	2024年 3月	本調査を依頼中
各実行団体が評価活用の継続を決めている	2団体以上が継続して評価を行う	2024年3月	<ul style="list-style-type: none"> ・事後評価の段階で各実行団体に確認
県内企業がシングルマザーの雇用を増やす。	連携企業の雇用人数が増加した	2023年9月	<p>今後実行団体の連帯企業の雇用状況を集計予定</p> <p>また、資金分配団体として今後広報活動をする中でつながる企業にシングルマザー就労への意識づけにつなげていきたい。</p>
資金分配団体が事業終了後も継続することができる。	事業終了後	2023年9月	<p>出口戦略の構築に向け、現状を踏まえ財団内、評価アドバイザー、今後有識者の皆様のアドバイスを頂きながら模索している段階。</p>
産官学との連携、多様なステークホルダーとの連携・協働体制がある	就労先企業以外の連携組織	2024年 3月	<p>有識者会議を開催したことで、日ごろお会いできない多様な方々との面識が生まれた。支援方法は違えど『沖縄シングルマザー支援』に携わっていることには変わりなく、県内外を超えた情報交換がなされた。今後2回3回と有識者会議を通して連携または、協力体制を築いていく。</p> <p>また、有識者会議のメンバーに参加してない重要なステークホルダーとなる県など行政にも今後アプローチしてゆく。</p>



② アウトカムの分析「⑧アウトカムの達成度」(※任意)

評価小項目	評価小項目の評価結果	評価結果の考察



事業のアウトカムの進捗評価	評価結果の考察
<p>事業のアウトカムの進捗の程度は、事業終了時には</p> <ul style="list-style-type: none"><input type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値を上回っての達成の見込みがある<input type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値を達成の見込みがある<input checked="" type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値はおおむね達成できる見込みがある<input type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値の達成は不透明である<input type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値の達成は難しい <p>と自己評価する</p>	<p>当初締結時のスケジュール遅延がありましたが、評価アドバイザーの協力のもと資金分配団体、各実行団体との対面で評価研修及びロジックモデルを再度確認し、各事業の進捗確認を行った。</p> <p>結果、2 団体は概ね事業が計画通りにすすんでいる。1 団体は、コロナ禍の影響で進捗が遅れ気味、また1 団体については、実際事業を動かしてみると事業のアウトカムに変更が生じることが明らかになった。</p> <p>その他、実行団体同士の連携も当初想定していたこと以上の成果に繋がった。</p> <p>資金分配団体としては、再度ロジックモデルを見直し事業のアウトカムを明確にできた。</p> <p>今後も評価アドバイザーの協力のもと進捗、評価等の研修を実施予定。</p>

B) 事業の改善状況の評価

① 事業の実施過程・事業改善に関する評価

評価項目	評価小項目	評価結果	考察
実施状況の適切性	<ul style="list-style-type: none"> ・ステークホルダーとの関係構築 ・社会課題の認知 	概ね適切に実施できている。	<ul style="list-style-type: none"> ・概ねすべての実行団体がステークホルダーとの関係構築が出来ている。 ・資金分配団体としては、第1回有識者会議を実施。大学の先生、シングルマザー支援活動団体、新聞社など、多様なメンバーが参加、各有識者より沖縄のシングルマザーの抱える課題の解決を目指し、意見等を頂き、本事業のシングルマザー層のターゲティングを明確にすることや、ステークホルダーとの連携が重要など情報共有できた。今後の本調査への足掛かりとなり、2回目以降の有識者会議へ繋げていきたい。
実施をおとした活動の改善、知見の共有	<ul style="list-style-type: none"> ・資金分配団体、実行団体は事業実施上で生まれた課題や成果などの知見を共有し整理、蓄積、改善に努めているか。 	資金分配団体は、実行団体の活動報告（ヒヤリング）から事業実施上で生まれた課題や成果などの知見を共有し整理、蓄積、改善に努めている。	<p>実行団体で若年シングルマザーを応援するシェルター支援事業において。スタート時点でキャリア、学業継続への支援をアウトプットしていたが、いざ事業を行ってみると、就労支援より先に退所後の生活基盤の安定や適切な支援機関へのリファーが重要課題だと認識していることを情報共有し事業計画の見直しを今後行う予定。</p> <p>また、就労支援をしている団体で、データアナリストの講座以外に動画クリエイターという分野もニーズが見込まれることから講座内容に取り入れることで、就労の選択肢が広がることも情報共有できた。</p>

<p>組織基盤強化・ 環境整備</p>	<p>・資金分配団体、実行団体は本事業を通して組織基盤強化が図れたか</p>	<p>資金分配団体、実行団体は本事業を通して組織基盤強化が図れた</p>	<p>・株式会社アソシアから事業計画作成、評価計画作成のプロセスが、他の事業へも活かされる、アウトカムを意識した事業計画及び成果の評価方法が確立したという意見があった。</p> <p>・資金分配団体は、評価アドバイザーから報告書を作成するにあたって、数値目標の達成だけでなく、言動や行動の変化を観測することも重要だとアドバイスをうけ、実行団体の個別面談時の聞き取りの際、意識づけするようになった</p> <p>・資金分配団体は JANPIA の研修に参加することでヒアリングの仕方や計画の立て方など伴走支援に必要なスキルを習得することができた。</p>
-------------------------	----------------------------------------	--------------------------------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

② 短期アウトカムの状態の変化・改善に貢献した要因や事例

第1回有識者会議で、シングルマザーに対する支援を継続することのみならず、生活費の節約を通して経済的にゆとりのある生活を送れるように支援することの重要性が共有された。

今後資金分配団体として、啓蒙活動に取り組みでいきたい。

③ 事前評価時には想定していなかった成果

・公益社団法人沖縄県母子寡婦福祉連合会とリトルワンズが情報共有や勉強会を実施するなど、実行団体同士が連携することで波及効果がうまれた。

・若年シングルマザーを応援するシェルター支援事業においては、キャリア、学業復帰のニーズ等については母体にとっては変化の大きい時期に、将来の仕事・学業について十分に考えきれないことに加え、そもそもつながる経緯での貧困、家庭、DVの問題を抱える利用者が多く、そのため安心安全な場でのケアや退所後の生活基盤の構築支援が重要課題であることが認識できた。



④ 事業計画（資金分配団体）の改善の必要性の確認

- 社会課題のニーズに事業計画の内容は合致している
- 受益者や対象グループのニーズに事業計画の内容は合致している
- 事業計画に記載している活動は、アウトプット⇒アウトカムへのつながりが実際に確認できている
- 残りの期間の資金配分・人員体制・スケジュールは活動を円滑に行えるよう計画されている
- 短期アウトカム指標は、事後評価時に測定し、達成度を評価することが可能な内容になっている



事業の改善状況の評価結果	評価結果の考察
<p>残りの事業期間で、事業が短期アウトカムを達成するために、</p> <ul style="list-style-type: none"><input type="checkbox"/> 事業計画は適切に改善されたといえる<input checked="" type="checkbox"/> 事業計画を適切に改善する見込みがある<input type="checkbox"/> 事業計画の改善について、課題が残っていると自己評価する	<p>コロナ渦における行動の制約があり計画通り進まなかった。但し、評価アドバイザーやおきぎん経済研究所、有識者委員の皆様のご尽力により今後計画が達成されるよう取り組んでいく。</p>

⑤ 中間評価結果を踏まえて今後注力したいまたは早急に取り組みたい事項をお聞かせください。

残りの期間で出口戦略について固めていく

県内のシングルマザー調査（本調査の実施）

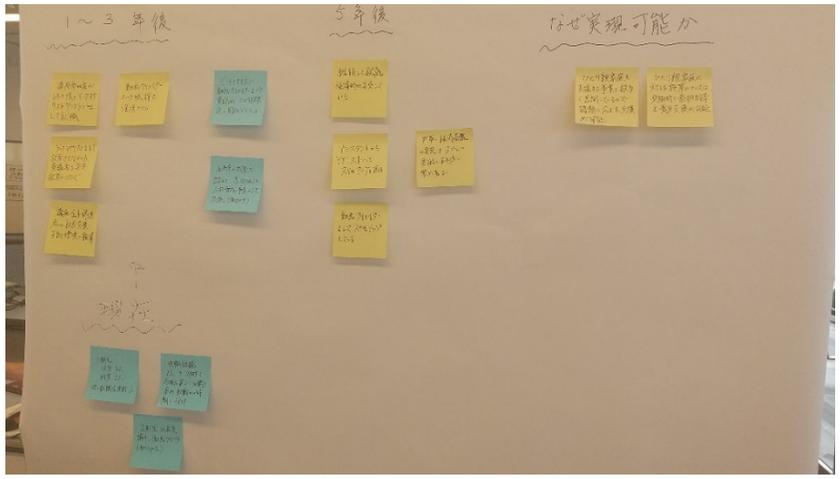
有識者会議の運営を通して、知見のノウハウを活かして取り組んでいく、また各関係者によるネットワークづくりの土台としてゆく。

添付資料

2022年6月21日開催 評価研修・ワークショップの様子



【評価アドバイザーの幸地氏による講座】



【座学だけではなく、実際に手を動かしてロジックモデルを作成】



【最後は記念に集合写真】